

第5回 浜坂温泉保養荘のあり方検討会 議事要旨

1 日時 令和7年6月9日（月）10:00～11:10

2 場所 県庁1号館2階会議室
（オンライン併用のハイブリッド方式）

3 出席者

谷口 泰司 委員、東鬼 正明 委員、向田 憲司 委員、松本 晃 委員、
谷口 薫 委員、庄 宏哉 委員、野田 誠一 委員、山北 貴子 委員

4 要旨

事務局からこれまでの検討の経緯や報告書素案等を報告した後、報告書素案の内容について委員間で意見交換を行い、事務局案をベースに最終とりまとめに入ることです承を得た。

5 主な意見

（1）素案について

① 施設の現状と課題関係

- ・ 県では、ユニバーサルツーリズムの推進に積極的に取り組む宿泊施設の宣言・登録制度を実施しており、5月末時点で宣言施設が136、一定の基準をクリアした登録施設が74ある。取組が全県に広がっていることに加え、福祉的な対応が可能な風呂・トイレ等を備える施設も出てきており、質や量、価格といった点で利用者が宿泊施設を選べる環境になってきている。
- ・ 本施設は昭和58年の開設以降大きな役割を果たしてきたが、ユニバーサルツーリズムの取組が浸透していく中で、相対的に求められる役割が変わってきていると言える。
- ・ 湯村温泉でのユニバーサルツーリズムの取組が報告書で紹介されているが、浜坂温泉までは距離があるほか、浜坂地区は、七釜地区・二日市地区とあわせて国民保養温泉地の指定を受けている。湯村温泉でユニバーサルツーリズムを頑張れば十分ということではないので、その点は取りまとめにあたって注意してほしい。
- ・ 本施設の持続可能性に大きな課題がある、という懸念をしっかりと書き込んでいる点は評価できる。施設の経営は非常に厳しく、県や町からの赤字補てんがなければ継続は難しい状態にあると考える。

② 検討の方向性関係

- ・ これまでの議論がよく反映されている。4つの柱で意見を整理したのもいいと思う。
- ・ 本施設は、事業団が丁寧に運営しており、良い施設だと思うので、今持っている機能を活かしていく方向を模索することは大事である。まずは宿泊施設

としてやっていくために適切な事業者をどう見つけていくかが重要だが、福祉の視点も入れて、現状の施設・機能をできるだけ生かした新しい運営を模索するのがいいのではないか。

- ・ 今後事業者のサウンディングの際には、宿泊だけでなく入所等、福祉用途の提案があっても良い。
- ・ リフト設備付きの小浴場やトレーニング室などもある施設なので、居室を改修して重度の方も受け入れられる施設という方向性も考えられるのではないかな。
- ・ 町では人口減少が課題となっている。また、高齢者のみの世帯が増える一方で、これらの世帯が利用できるケアハウス等が不足しているため町外に転出していくケースもある。そのため、地域で暮らせる福祉施設としての活用が可能であれば、地域には大きなメリットがある。
- ・ 福祉施設や学校は、定住支援と組み合わせれば長期的な効果を期待できるので、考え方によっては貴重な資源となるのではないかな。

③ その他

- ・ 障害者更生センターを運営する場合、国庫補助を受けられる等の財政的なメリットはあるか。
→（事務局）特に無い
- ・ 郡部を中心に、福祉施設の運営について物価高騰と人材の確保が深刻な問題となっているので、福祉施設としての運営も厳しいと見込まれる。
- ・ 民間譲渡を進める際には、従業員や利用者への周知が必要であり、今後のスケジュールを十分調整してほしい。
- ・ 浜坂温泉郷が国民保養温泉地の指定を受けた際の温泉地計画書に、浜坂温泉保養荘に関する記載もあるので、本施設の用途見直し時にはその部分にも影響する。指定から期間も経過しているため、新たな役割・地域の姿なども踏まえて検討できればと思う。

（２）次回の予定

- ・ 素案の方向性で最終とりまとめに入る。
- ・ 新任委員の現地視察を行い、報告書を最終的にまとめる。
- ・ 次回は７月頃を予定。報告書として決定していく。